琉球大学 IEEE 学生ブランチ設立 10 周年の歩みと未来へつなぐ思い

1. はじめに（設立背景と目標）



図 1：設立当時の記念集合写真（2016 年）

琉球大学 IEEE 学生ブランチは、2016 年 9 月 29 日の設立以来、電気・電子・情報通信分野を学ぶ学生の専門知識、英語力およびコミュニケーション能力などの向上を図るとともに、学生同士の学術交流や地域社会への貢献を目的として、さまざまな活動に取り組んできました。私たちが設立当初から大切にしてきたのは、単に自分自身の知識や技術を高めるだけでなく、学んだことを仲間と分かち合い、互いに支え合いながら、ともに成長していく。こうした信念のもと、歴代の学生たちが築いてきた学びと挑戦の場を大切にしながら、沖縄から全国、そして世界へと交流の輪を広げ、次世代を担う研究者・技術者として、ともに成長できる環境づくりを目指してきました。

2. 活動実績



図 2：子ども向け電子工作体験教室の様子

琉球大学 IEEE 学生ブランチでは、電気・電子回路の実験講習会、Python プログラミング講習会、英語論文セミナー、英語プレゼンテーション講座、各種ワークショップや学生交流会など、学生が主体となった幅広い活動などを行ってきました。地域社会への貢献活動の一環として、子どもたちを対象とした電子工作体験教室を開催しました。PIC マイコンを用いたタイマー製作やはんだ付け体験に加え、Linux ゲームや IoT 技術の実演などを通じて、電気電子工学の面白さやものづくりの楽しさを実感できる機会を提供しました。また、琉球大学工学部で毎年開催される技術講習会では、中高生を対象に、Raspberry Pi と各種センサーを活用した実践的な体験型講習会を実施しています。参加者は、電子回路の組み立てや Python によるプログラミングを学びながら、気温・湿度・気圧などの環境データを実際に測定し、さらに Looker Studio などを用いて測定データをリアルタイムに可視化することで、データの収集から分析・活用までの一連の流れを体験できる内容となっています。これらの活動を通じて、次世代を担う若い世代の科学技術への関心を高め、電気電子工学や情報技術をより身近に感じてもらう機会を提供しています。こうした活動で培った Raspberry Pi や各種センサの技術知識を、IEEE 学生ブランチのメンバー達は、琉球大学北口のゼロエネルギーハウス（ZEH）におけるリアルタイム環境計測に応用しています。温度・湿度・気圧などの測定データを無線で継続的に収集し、クラウド上で可視化する仕組みづくりに取り組

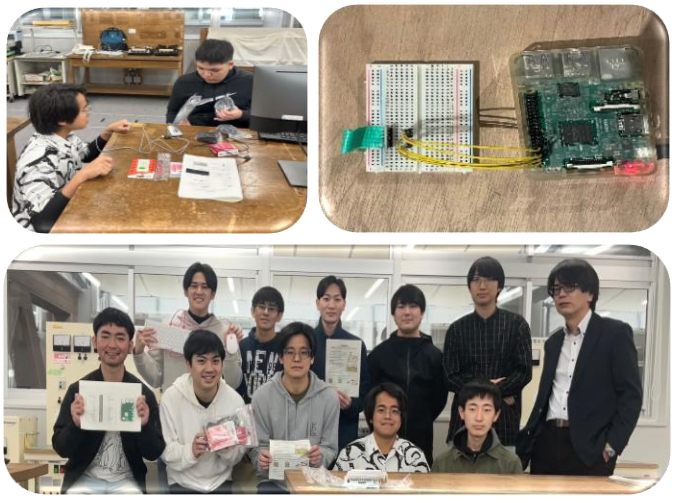


図 3　Raspberry Pi を活用した技術講習会（2025 年）

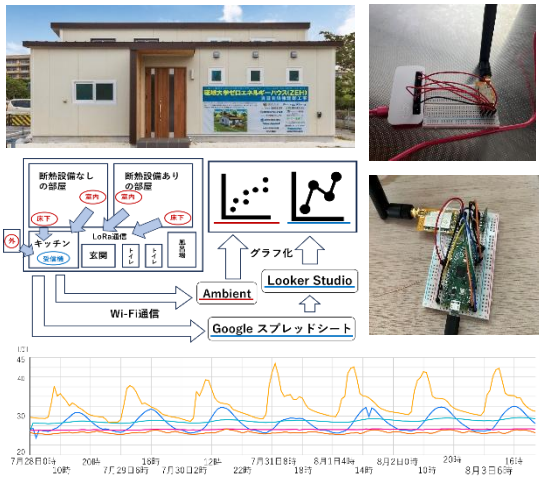


図 4：ZEH の環境計測とデータ可視化

んでいます。これにより、断熱性能と室内の快適性との関係を把握し、快適性と省エネルギーを両立する住環境の実現に向けて検討を進めています。

また、琉球大学で開催される電気学会九州支部沖縄支所講演会や令和 7 年度電気学会電力・エネルギー部門大会など、各種学術講演会・研究交流会の運営にボランティアとして運営に協力するとともに、学生自身も国内外の学会や国際会議において研究成果を積極的に発表しています。研究者や技術者との交流を通じて新たな知見を得ることは、自らの研究を深めるだけでなく、研究成果が社会にどのように役立つのかを考える貴重な機会となっています。さらに、英語論文セミナーや研究交流会を通じて、専門知識の習得にとどまらず、英語による研究発表能力や国際的なコミュニケーション能力の向上にも力を注いでいます。加えて、全国の IEEE 学生ブランチが集う年次ワークショップ「IEEE Student Branch Leadership Training Workshop（SBLTW）」にも継続的に参加し、本学での活動報告や他大学の学生との意見交換を行ってきました。大学や研究分野の枠を越えて出会った仲間とのつながりは、新たな挑戦への意欲を育み、沖縄から全国、そして世界へと視野を広げる大切な機会となっています。



図 7：IEEE ETECOM 2025 最優秀賞

3. 活動を通じた成果と成長

研究や技術の習得は、決して成功ばかりではありません。何度も実験やシミュレーションを繰り返しても期待した結果が得られず、悩み、時には自信を失いそうになることもあります。それでも、先生方のご指導や仲間との議論を重ね、互いに励まし合いながら困難を乗り越え、ようやく成果が得られた瞬間には、何にも代えがたい達成感があります。また、自分自身の成功だけでなく、ともに努力してきた仲間の研究が実を結んだときや、後輩が自信を持って新たな挑戦に踏み出す姿を見ることも、私たちにとって大きな喜びです。

こうした活動などにおける努力と学び合いを重ねる中で、本学生ブランチのメンバーは、省エネチャレンジカップをはじめとする各種コンテストや国内学会、IEEE 関連の国際会議などにおいて、Best Paper Award を含む複数の賞を受賞するなど、さまざまな成果を上げてきました。これ



図 8：ICMaSS 2021 優秀発表賞

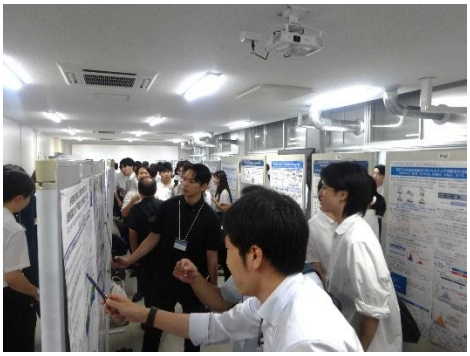


図 5 令和 7 年 電力エネルギー部門大会でのポスター発表・質疑応答の様子

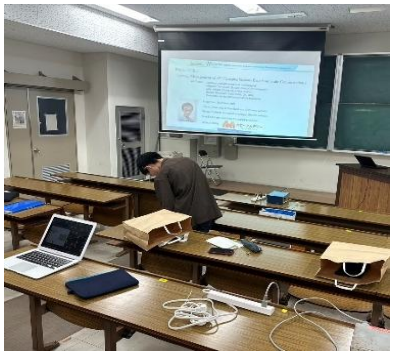


図 6 電気学会九州支部沖縄支所講演会での会場準備の様子



図 9：電気学会電力系統技術研究会優秀研究発表賞（2023 年）

らの成果は、学生一人ひとりの努力と、先生方々の温かいご指導、そして仲間同士が支え合い、ともに成長してきた積み重ねによるものです。私たちが何よりも大切にしているのは、受賞という目に見える成果だけではなく、そこに至るまでの努力や挑戦、そして苦労も喜びも分かち合ってきた仲間とのつながりです。一人の成功が仲間の励みとなり、その経験が後輩たちの新たな挑戦を支えていく。こうした学びと成長の積み重ねが、世代を越えて受け継がれ、今日の琉球大学 IEEE 学生ブランチを形づくってきました。そして、その歩みが 2026 年、設立 10 周年という大きな節目へとつながりました。

4. 設立 10 周年を迎えて



図 10：設立 10 周年記念撮影



図 11：SBLTW2026 全国 IEEE 学生ブランチ交流会

2026 年に琉球大学 IEEE 学生ブランチは設立 10 周年を迎え、徳島大学で開催された「SBLTW2026」にて、IEEE より記念楯を授与されました。 振り返れば、この 10 年間は決して平坦な道のりではありませんでした。卒業や進学によってメンバーが入れ替わる中、学業や研究と両立しながら活動を支え、次の世代へとつないでくださった歴代の先輩方、そして学生たちの挑戦を温かく見守り、ご指導くださった先生方の存在があったからこそ、今日まで歩み続けることができました。

今回授与された設立 10 周年の記念楯には、琉球大学 IEEE 学生ブランチが歩んできた 10 年間の歴史が込められています。それは、歴代の先輩方が重ねてきた挑戦、活動を支えてくださった皆様の温かな支援、そして先輩から後輩へと受け継がれてきた学びと情熱の証です。一人ひとりの小さな一歩が積み重なり、今日の私たちが学び、挑戦できる場へとつながっています。この楯を受け取ることは、その歩みに感謝するとともに、託された思いを次の世代へ届ける役割を引き受けることでもあると感じています。また、Research.com が公表した 2026 年版の大学ランキング（https://research.com/university/university-of-the-ryukyus）では、琉球大学の電気電子分野が全国 10 位、世界 297 位に位置づけられています。こうした評価の背景にある先生方や先輩方の研究の積み重ねを励みに、私たち学生も日々の学びを深め、研究成果を国内外へ発信してまいります。そして、ここ沖縄で育まれた知識と技術を、社会の課題解決へとつなげていきたいと考えています。

5. 今後の展望

これまでの 10 年間で受け継いできた知識や経験、そして仲間との絆を大切にしながら、今後も技術講習会や学術交流、地域社会への貢献活動を通じて、ともに学び、成長できる環境づくりに努めてまいります。研究成果や技術は時代とともに進化しても、仲間と悩み、励まし合いながら挑戦した日々と、そこで生まれた絆は、いつまでも心に残り続けると信じています。10 年前に先輩方が踏み出した一歩は、多くの学生たちの努力と思いによって今日まで受け継がれてきました。今度は私たちがその思いを次の世代へつなぐ番です。これまでの 10 年間への感謝と、これからの 10 年間への希望を胸に。沖縄から世界へ、そして先輩から後輩へ。受け継がれてきた思いを大切に、琉球大学 IEEE 学生ブランチの新たな歴史を、これからも仲間とともに紡いでまいります。